首都圏大曲会会報　第５号

# ふるさと大曲

題字　澁谷一男

平成20年７月発行　発行所：〒102-0073 東京都千代田区九段北1-1-7-304 教育情報プロジェクト気付 首都圏大曲会事務局
電話 03(5213)2028　FAX 03(5213)2029　e-メール：info@e-prosjp.com



丸子川冬景色（昭和28年）

## 首都圏大曲会創設20周年　記念号




大曲の花火通り（平成20年）







上は大曲駅、下はグランマート（いずれも平成20年）

## 「内城菌（うちしろきん）」パワーで
# 私のこだわり米

世紀の節目である西暦2000年（平成12年）、私は「伊勢神宮新嘗祭献穀田」を斉行する機会を与えていただきました。以来、自然環境と食の安全に対する考え方が改まり、稲づくりにも少しずつ改良を加えてまいりました。

そしてここで出会ったものが「内城菌」でした。画期的なパワーを発揮するこの菌は、これまでは厄介者として扱われてきた食物、魚肉、野菜などから出る生ゴミを有機肥料と化してリサイクルします。これで土壌は生まれ変わり、植物は栄養分を吸収し易くなり「内城菌農法」が可能となります。私のこだわりは、この肥料を入れて栽培する有機米です。

「内城菌農法」は、米作県秋田でもエコサイクルとして力を入れる農法の一つです。これまで八郎潟【湖】の生態系を壊してきた外来種のブラックバス駆除後の処理に、内城菌を使っての有機肥料化に成功し、湖水浄化促進のエースとして注目されました。これは地球に優しい、循環型農業として期待され地元テレビでも取り上げられました。

生ゴミを燃やせば$CO_2$が発生し地球温暖化を促進させます。これを内城菌を使ってリサイクルすることで、大地に潤いを与え、私たちに食の安全と喜びを与えてくれます。花火の町に住む一人の農業人として私は、「私のこだわり米」に意欲的に取り組み、この豊かな大地を後世につないでいきたいと考えております。

そんな気持ちで生産したお米を、首都圏で活躍する大曲出身のみなさまに食していただき、私もみなさまの活躍を応援できることを嬉しく思います。

佐藤　久男

## 食物－生ゴミ－有機肥料

もったいないと言う言葉が甦る。
資源として、人の和が織りなす
自然と人間の共生の実現

## 環




微生物の恵みをいっぱいに受けて育った「こだわり米・あきたこまち」




耕耘前の田に特殊有機肥料「内城菌」の散布で「私のこだわり米」は生産を開始する

## ふるさとから応援していま～す！

10kg　5,000円、10kg×2　9,500円、10kg×3　13,800円

贈答用として3kg、5kgもご用意できます。送料はすべて当方で負担いたします。
まことに申し訳ございませんが、平成19年度産米は在庫が僅少となりました。
何とぞ品切れの際はご了承願います。平成20年度米につきましてはご予約を承ります。どうぞよろしくお願いいたします。

ご連絡先　〒014-0103
大仙市高関上郷字高屋敷42　佐藤久男
TEL　0187－66－1702　FAX　0187－62－5614

首都圏大曲会創設二十周年記念号

# ふるさと大曲　第五号　目次


写真で綴る　大曲今昔……2
〔市長アピール〕
ふるさと大曲の応援をよろしくお願いします　栗林次美……6
〔会長アピール〕
新たな二十年へ向けて今、力強く踏み出そう　大釜茂璋……7

■随想　ふるさと交流
時は流れて　想い出遠く……8
小松辰巳・大友重俊・吉野富夫・高田洋子・佐藤重光
柿崎忠彦・小松美智子・大釜茂璋

■首都圏大曲会創設二十周年記念
座談会　わがふるさと大曲を語る……13
棟方宏一・大山信雄・斉藤貞助・大友律子・鈴木　繁
古宮理絵　（司会　大釜茂璋）

ふるさと探訪ツアー　参加者募集！……21

凛として華麗・伝統
大曲の花火　賢木新悦……22
首都圏大曲会　会員のひろば……24
大曲風　お菓子のレシピ……25
編集後記……25



首都圏大曲会創設20周年を
お祝い申しあげます

大曲商工会議所

〒014－0027　大仙市大曲通町８番50号
TEL 0187-62-1262　FAX 0187-62-1265
URL http://www.obako.or.jp/kaigisyo/



歳の市で賑わう大曲駅前（昭和34年）



「第3回おばこコンクール」
大曲駅前のかかし（昭和30年）



道ばたで遊ぶ子供たち・内小友
（昭和27年）

# 写真で綴る 大曲今昔

この地で生まれ、この地で暮らした人々の息づかいが
今も感じられる。受け継がれてきた文化や慣習に
新しい息吹を注入して未来へと
引き継がれていく



大曲駅前から花館方面へ向かう道
（昭和30年）



賑わう大曲駅前通り
（昭和31年）



タカヤナギ百貨店付近
（昭和31年）



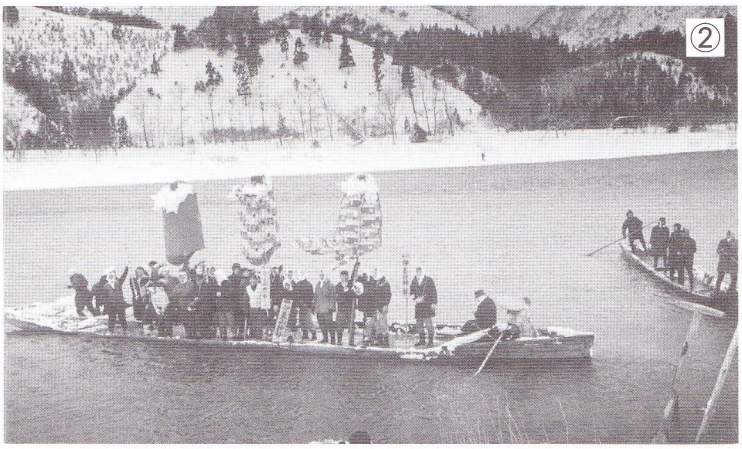

大町交差点に立てられた大農祭の大かかし（昭和26年）



大曲小学校の大掃除（昭和26年）



旧大川西根小学校（昭和30年）













写真①四ツ屋からも花館からも見えた「三本杉」（昭和27年）、②「馬舟で川を渡る梵天」（昭和29年）、③「角間川の港跡」（昭和35年）往時は積み荷をして雄物川を行き交う舟で賑わったという。④角館街道、四ツ屋杉本の佐藤商店前（昭和26年）。角館街道を通って大曲に向かう人は、このあたりで一休みして汗を拭い、花館村大花町を経て大曲の町へ入った。

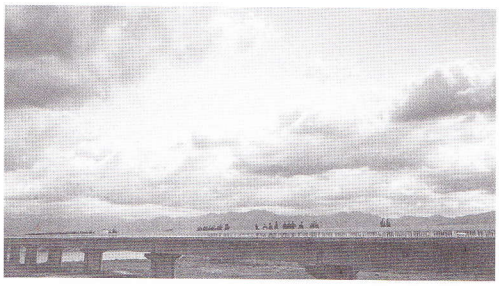
写真家大野源二郎さんをご存知の方は多いと思います。昭和63年、東京の出版社、国書刊行会から出版された同氏の「写真集なつかしの大曲」は、往時の大曲を偲び、今に残す貴重な資料です。今回首都圏大曲会創設二十周年『ふるさと大曲』記念号発行に際しては、大野さんの温かいご理解を得て、全面的なご協力を頂きました。改めて感謝いたします。



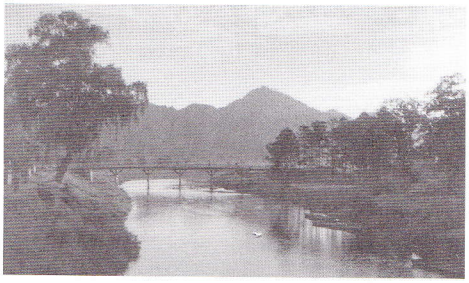
往時の丸子橋（昭和28年）



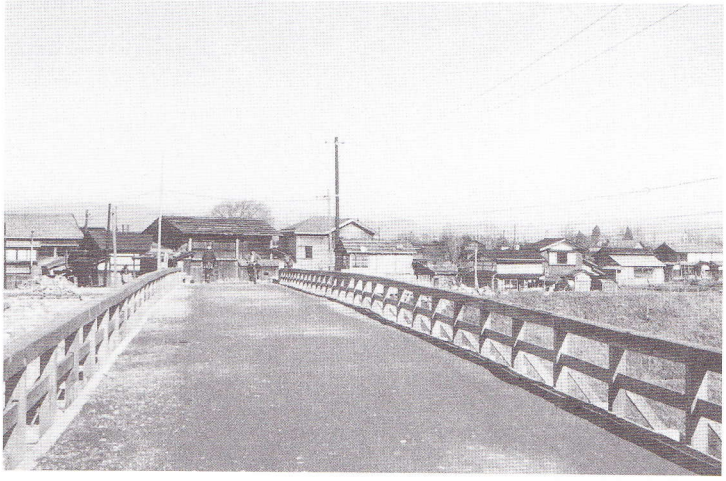
四十二館・藤木（昭和27年）



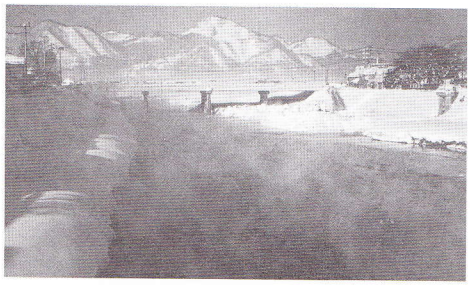
新しい姫神橋（昭和48年）



夏の丸子川（昭和28年）



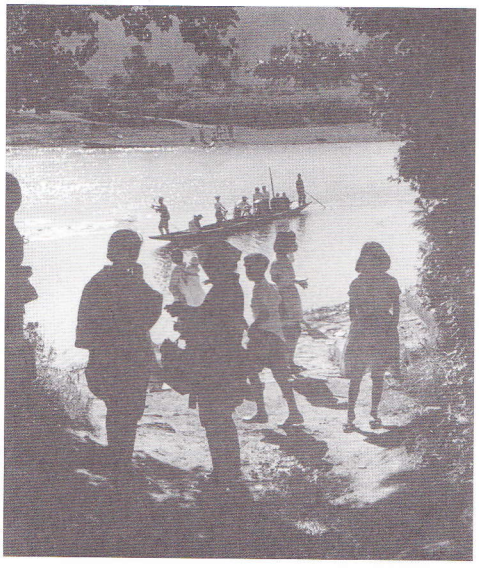
館の橋（昭和27年）



雪の丸子川（昭和27年）



丸子川左岸・大川寺裏付近（昭和28年）



合流地点から雄物川を少しさかのぼると勝町渡船場があった（昭和35年）

昭和20年代から30年代の大曲の町は、活気に溢れていました。仙北郡という広大な米どころの中心地として栄えてきたのです。

大曲は平成10年頃、全国660余の都市の中から、住み易さナンバーワンとして３年連続でランクされました。

時は移り、政府の音頭で「市町村平成の大合併」が行われました。以前からこの地域は嫁婿の出入りが盛んに行われ、米作の水系は一緒、400にも及ぶ大曲の飲食店の女将は周辺地域の出身者が多かったことも影響して、比較的スムーズに合併は進みました。大曲市は大仙市と名を変え、希望に燃えて新たな一歩を踏み出したのです。

# 新しい時代の風を受けて

大野源二郎さんがライフワークとして取り組んだ「写真集なつかしの大曲」のページをめくると、そこには懐かしい大曲を目にします。人で埋まる町の通りは活気に満ちて、行き交う人々の声が今にも聞こえて来そうな感じです。時が変わり、車社会に変じた現代では、道路は立派に整備されましたが、人の流れは分散し、往時の雑踏は姿を消してしまいました。



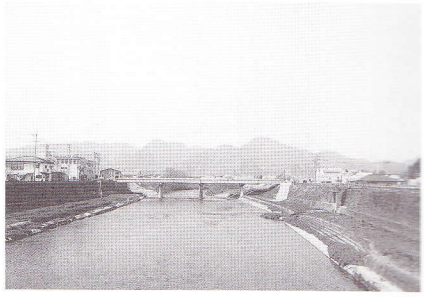
姫神公園の平和観音



ジョイフルシティ方向から見た大曲駅



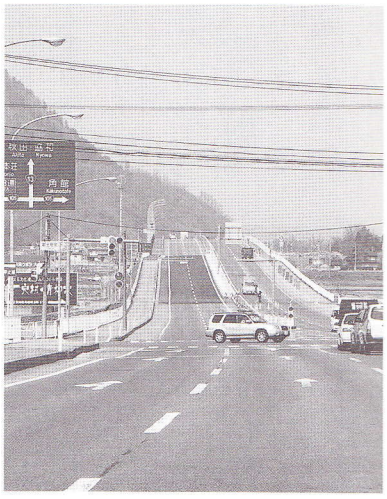

大曲駅からの通り「花火通り商店街」



現在の丸子橋から西山を見る

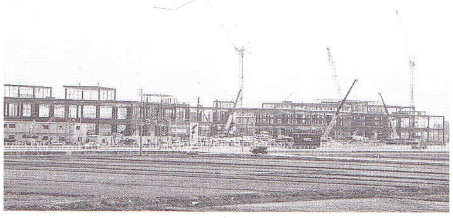



月岡映画館跡に建つホテルルートイン

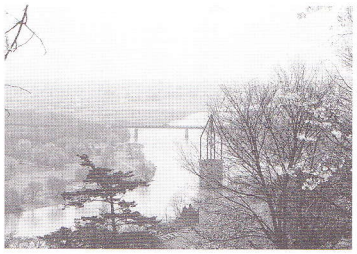


国道十三号線バイパス

**【大仙市ひとくち知識】**大仙市誕生の平成十七年三月の人口は、九万六千五十九名（男四万五千六百五九名、女五万四百名）。それが平成二十年三月は九万三千百三名（男四万四千七十二名、女四万九千三十一名）です。但し世帯数は三万二百六世帯から三万五百四十八世帯と三百世帯以上も増えました。少子化現象は大仙市にも影響を及ぼしていることがわかります。



建設中のイオン大曲ショッピングセンター（仮称）



姫神公園から雄物川




グランマート中通店



旧国道川端ボウリング場前

東に奥羽山脈、西は出羽丘陵の山々に囲まれ、雄物川、玉川の流れに潤うわがふるさと大曲。私たちはこの豊かな自然の中に生まれ、育ちました。

時代の流れは市町村合併を促し、大曲市は大仙市として新たな名称のもと人口九万余名の地方中堅都市に生まれ変わりました。大曲は花火で知られるように、名所・史跡、特産品など全国に誇れる数多くのものが揃います。長い歴史と恵まれた自然とともに、そこに住む人は人情に溢れ、この町を訪れる人の気持ちを優しく癒してくれます。

今大曲は、新しい時代の風を受けてその姿を刻々と変えつつあります。道路事情が整備され、これからは集まってくる人の流れも変わることでしょう。新しい動きにどう対応していくか、それは大曲だけに限らない、どこの都市にも共通の課題となっているのです。



# ふるさと大曲の応援を よろしくお願いします

栗林次美（大仙市市長）

首都圏大曲会創設20周年を心からお祝い申し上げます。

大釜会長さんをはじめ会員の皆様には、日頃から『ふるさと大曲』に対して心温まるご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、首都圏大曲会が発足した昭和63年当時の人口約四一、〇〇〇人の旧大曲市は、平成17年3月に周辺七町村との合併により人口約10万人の市として生まれ変わり、今年で四年目を迎えます。合併以来、施策の最大の柱として取り組んできた「市民と行政との協働のまちづくり」が徐々にその成果を現し、地域色豊かな花を咲かせつつあります。今後も、地域の特性を生かした事業の推進によって、地域住民の福祉向上と地域の活性化が図られるよう努めてまいりますとともに、地域の皆さんの元気を結集し、大仙市として一体感を持った、活力溢れるまちづくりを目指し、事業を計画的に進めて参りたいと考えております。

大曲地域においては、駅前第2地区土地区画整理事業により、大曲丸の内町周辺の整備や大花町周辺では都市再生住宅が平成21年度の完成に向けて建設が進むなど、大仙市の中心機能の強化が着実に進んでおります。また、隣接する神岡地域においては、面積100haという県の大規模工業団地の整備に向けた調査の開始や、4車線化工事が順調に進んでいる国道13号バイパス沿いには大型ショッピングセンターが進出するなど、雇用の拡大に向けて明るい話題が増えてきております。

市といたしましては、地方分権や財政健全化への取り組み、少子高齢化社会への対応など極めて難しい局面を迎えておりますが、首都圏大曲会の皆様をはじめ、市民の皆さんの知恵と活力をお借りしながら、将来都市像である「人が活き　人が集う　夢のある田園交流都市」実現に向けて力強く歩んでまいりますので、会員の皆様の絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、平成20年度から「ふるさと納税」制度が創設されます。市外に住んでいる方が、ふるさとなど応援したい自治体に寄付をすると、その分が個人の所得税や住民税から軽減される仕組みになっております。大仙市では、現在、いただいた寄付の使い道など、首都圏大曲会の皆さんをはじめ、多くの方々に関心を持っていただけるようなメニューを準備しているところでありますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、首都圏大曲会が会員相互の親睦を深められ、益々ご発展されますことを期待申し上げますとともに、会員の皆様のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げまして、お祝いのごあいさつとさせていただきます。





株式会社　嶋田ハム

代表取締役　嶋田耕治

〒014-0016 大仙市若竹町26－23
TEL（0187）63－1576
FAX（0187）63－1578



# 新たな二十年に向けて
# 今、力強く踏み出そう

大釜茂璋
（首都圏大曲会会長）

首都圏に住んでいて、大曲をふるさととする人々の集いが首都圏大曲会です。平成元年、呱々の声をあげたこの会は、文字通り今年二十歳になりました。いよいよ逞しい青年期に入ったことになります。

この間の運営、発展にご支援ご協力をくださいました会員のみなさま、そして多くのご関係のみなさまに心から御礼を申しあげます。

まだまだ若かった頃の思い出です。夜上野駅を発って一晩走り続けた列車が、横手を過ぎ、大曲に差しかかると、左前方に、ゆるやかに屏風を立てたような山並みが見えてきます。その真ん中で一段高い太平山。久しぶりに感じるふるさとの感触。ああ帰って来たなという安堵感とともに、そこで待つ親、兄弟姉妹、そして懐かしい人々の顔が胸中を駆け巡るものでした。

それが新幹線の走る今では、東京・大曲間は僅か三時間余。余裕をもって日帰りすら出来る距離感は、ふるさとにたいする思い入れを希薄にさせたという人もいます。しかしこまち号の車窓から見る西山は、広々とした大空を背景にして穏やかに私たちを迎えてくれます。その遥か彼方に鳥海山の優美な姿が望まれると、やはりそこには素晴らしいふるさと大曲が息づいているのです。そしてこの町並を中心に広がる旧大曲市一帯が醸し出す、山、川、森、田園の雰囲気。それにどっぷり浸かることの出来るのは、ふるさとの温もり以外の何ものでもありません。

ふるさとを遠く離れて生活をしていても、大曲あるいは大仙市という語を目にしたり耳にすると、例え内容はどんなことであっても神経が集中するのは、やはりそれが自分たちのふるさとの名称であるからです。市町村合併で大曲は大仙市に生まれ変わりました。大仙市総合計画の基本構想は、「人が活き　人が集う　夢のある田園交流都市」。ここに生きる人々は、緑豊かな田園交流都市としての発展を望んでいるのです。市民意識調査からも大仙市のイメージは、「田畑が広がった農業のまち」、「自然と調和した地域」としての存在となっています。そして十年後に望まれるものは、「福祉や保険の充実」とともに「道路や公園など生活基盤の整備されているまち」です。

素晴らしいまちへ生まれ変わることは、大きな希望の実現に向けた市民と行政の率直な交流と、それにともなう努力を必要とします。この時こそ首都圏に暮らす私たちも、一体となって新しいまちづくりに協力するときであると考えます。

私たちは首都圏と地元の風通しを良くする潤滑油となり、また風を興す媒体となって、積極的に行動したいものです。二十歳の瑞々しい青年の発想と行動で、ふるさとの発展に必要とされる首都圏大曲会として、新たな二十年に向け、今、力強くその一歩を踏み出したいものです。

伝えていきたい
秋田ならではの風土と暮らし…
タカヤナギ・グランマートは
秋田の食文化を応援します。

Takayanagi
Quality Life Partner
クオリティライフパートナー

GRAN MART
タカヤナギ・グランマート

大仙市・秋田市・横手市・湯沢市・由利本荘市・仙北市

■随想　ふるさと交流

# 時は流れて　想い出遠く

首都圏大曲会二十周年を記念して、この会に託す思いを寄稿していただきました。ふるさとは年齢を重ねるにつれて懐かしいことばかり。それは遥か遠い時の流れの中で、今も確かな想い出として生きているのです。



## 変貌遂げる大曲

小松辰巳（大仙市企画部長）

首都圏大曲会が創設されて今年二十年を迎えるに当たり、心からお祝いを申しあげるとともに、会の振興に務められた役員各位のご努力に敬意を表したいと存じます。

皆さまの会が創設された平成元年は、「音と光りと水のまち・大曲」として、「第一回大曲新人音楽祭コンクール」や「第一回おばこ節全国大会」が開催され、両イベントとも今年二十回を数えております。

この間皆さまのふるさと大曲も大きく変貌しました。特に大曲駅を中心とした地域は、首都圏大曲会が創設された平成元年に着手した駅前第二地区画整理事業や、駅東側の開発によって、新しい街並みとなりました。また国道十三号バイパスや大曲西道路等の開通により郊外も随分様変わりしてきております。

一方首都圏大曲会では、この秋、会員による「ふるさと探訪ツアー」を計画していると聞き及んでおります。これにはふるさと大曲を愛する多くの方々にご参加いただき、皆さまの目で、肌で、変わりゆく大曲を実感していただきたいと思います。

この春、大曲は櫻の季節が駆け足で去り、今は、新緑からみどり滴る季節を迎えております。農作業も急ピッチで進み、田んぼに水が張られると周り一面が水鏡の世界となります。

水面に写る満点の星空、私たちのふるさとの自然の豊かさを実感できる時でもあります。そんな美しい皆さまのふるさとを、いつまでも美しい姿のままで残していきたいと考えております。

ガソリン等の暫定税率など、マスコミ報道の通り巷間の関心を呼んでいますが、それとともに新しい制度として「ふるさと納税制度」が創設されております。大仙市でも多くの皆さまに応援をしていただけるような、魅力ある地域を創設してまいりますので、首都圏大曲会の皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆さまのますますのご隆盛を祈念いたします。

（本稿は四月三十日に寄稿頂きました）

## 整備された街並

大友重俊（大仙市役所中仙総合支所市民課課長）

首都圏大曲会のみなさま、こんにちは。首都圏大曲会創設二十周年おめでとうございます。

会の創生期は、会員の募集には大変なご苦労がお有りだったことでしょうし、今日までの発展に尽くされた方々、それを支えた会員のみなさまに心から敬意を表しお祝いを申し上げます。

さてそこで二十周年を記念して、変化する最近の大曲の街の様子をご案内しましょう。

新幹線こまちで大曲駅に降り立ちますと「大通り」があります。駅前にあった月岡映画館がなくなり、今年の三月にホテルがオープンしました。カネトク、ヤマサ、タカヤナギの御三家と言われたデパートはだいぶ前になくなり、今タカヤナギはスーパー「グランマート」として営業中です。その交差点の向かいにあった北都銀行は、少し離れた場所に移転し、その横の道路は、旧国道十三号に向かってまっすぐに広がりました。

丸の内町方面に足を向けると、街の様子は一変し、飲食店街は整然となりました。（反面、昔の面影がなくなり、ちょっと寂しいかな）

今度は黒瀬町方面に向い、山下医院横の交差点をまっすぐ進むと、鉄道の下を通り、大花町方面に向かう道路を造っている最中です。

これらは、市が行っている区画整理事業によるものですが、この他にも、郊外に大手スーパーが進出したり（三月現在工事中）、新しく道路ができ、建物が新しくなったりと、ふるさとも少しずつ変わってきております。

しかし、丸子橋から見る西山の風景は昔と変わらず、ここから見る景色は、まさに大曲の原風景と言えるのではないでしょうか。

街の様子は変わっても、人情味あふれる市民性は変わらず、みなさまが大曲に帰られたときは、心を込めて「お帰りなさい、ふるさとへ」と言いたいと思います。これからも大曲会のみなさまと地元が連携し、大曲会とふるさと大曲が一層発展するように頑張って参りたいと思います。

首都圏大曲会のますますのご発展と、会員のみなさまのご健勝を祈

伝統の銘酒
刈穂（かりほ）
秋田の心を醸す
大地の恵みとともに
http://www.igeta.jp/
e-mail info@igeta.jp

雪蔵銘醸
出羽鶴（でわつる）
秋田清酒株式会社
秋田県大仙市戸地谷字天ヶ沢八三の一
TEL 0187(63)1224
FAX 0187(63)2277
・お酒は二十歳になってから、お酒はおいしく適量を。
・妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

時代を越えてきたという自負と、
次代を形づくるという夢が、
私たちのハートです。
弘化４年（1847年）創業
三傳商事株式會社
〒010-1633 秋田市新屋鳥木町１番81号
TEL 018-888-8510（代）　FAX 018-888-8511
首都圏サテライト（担当：大和久）
〒224-0012 横浜市都筑区牛久保2-25-6　ジュネスピアA102
TEL・FAX 045-913-9445　携帯 090-7260-5296

念申し上げます。

（筆者は、元大仙市役所企画部総合政策課地域政策班参事）

## おいしい大曲

吉野富夫
（大曲商工会議所専務理事）

首都圏大曲会から会創設二十周年を記念して、なつかしい大曲、おいしい大曲をテーマに書いて欲しいとの原稿依頼がありました。

それならばと、首都圏に住む方々に大曲のおいしいもの、懐かしいものを思いだしてもらおうとの趣旨で書いてみることにしました。

大曲商工会議所には食品関連業部会という組織があり、ここでは食品製造・販売への支援を行っています。先般もこの部署の声がかりで、大曲の隠れた名品を発掘しようという目的のもとに、『大曲名物　食品発掘交流会』を大曲エンパイアホテルで開催しました。

この日は十二社二十二品目に及ぶ出品がありました。同時に試食会も行われ、六十名もの参加者が舌鼓を打ったものです。

中でも昔からこの地域の冠婚葬祭では欠かすことのできなかった口取りとして伝授されてきた「とうふかまぼこ」、古代米や玄米を使用した「おやき」、大仙市産の山菜やとんぶりを使った「山菜シューマイ」、キュウリやいぶりがっこなどの「漬物」等々が好評を博しました。

首都圏大曲会のみなさんは、このような大曲の食べ物を忘れずに覚えてくれているかどうか。

それでは当日の出品物から抜粋してご紹介いたします。思い出していただけるかどうか、中には今でも取り寄せて食べていますという方もいるかも知れませんが、まずは誌上で懐かしさとともに、気分でご賞味ください。

**いぶりがっこ**　大仙市神岡の石山さんが、大根から育てて作ったいぶりたくあん。

**自家製ハンバーグ**　国産豚肉とオーストラリア産の牛もも肉を使用。調味料は自家製のものをブレンドして作りました。

**自家製ごぼう巻き**　国産のごぼうと人参を国産の豚バラ肉で巻いて、甘辛にしてじっくり時間をかけて作っています。

**えご**　出品された社のえごは、こしがあり、もちもち感があって、美味しいと言われています。

**三杯もち**　この地方で古くから親しまれている郷土菓子「三杯みそ」。米粉・麦粉・白玉粉を茶碗で1杯ずつ合わせたのが名前の由来です。小豆あんの美味しさを引き立てるつじや独自の製法を守り、添加物・保存料を一切加えずに、職人が一本一本を手練りして蒸し上げます。

**とうふかまぼこ**　大曲・仙北地方で冠婚葬祭に欠かせぬ口取りとして伝授されてきた「豆腐かまぼこ」。つじやは明治初期から五代・百数十年に渡り伝統の味と製法を受け継いでいます。豆腐と白身の魚肉を合わせ、添加物や保存料を一切加えず、一本一本丹念に手巻きして蒸し上げます。

**さつまいもの花みそ各種**　添加物を使用しないモチ菓子各種。

**玄米おやき・古代米おやき**　同様に添加物なしの昔からのモチ菓子です。

**花火ラーメン**　「花火のまち大曲」らしい、まちづくりの一環として一番初めに登場したメニュー（商品）。全国の人々がご来店くださる「ミニヒット」商品です。特徴は、見た目もドーンと夜空に花火が拡がった華やかさがあります。地元の食材が飾られた地産地消のラーメンです。

**大学いも**　五十年の伝統を持つ味。大曲の名物です。タレも昔ながらの手作りで、老若男女、みなさんに愛される懐かしいおいしさです。

**野菜たっぷり豆腐カステラ**　今までの豆腐カステラと違って、甘さ控えめでヘルシー。お茶うけにもなりますが、お総菜として人気があります。「お豆腐のテリーヌ」という感じで、郷土料理をおしゃれにアレンジしています。

**打ち上げ花火弁当**　秋田のうまいもん・旬の味たっぷりの手作りお弁当。季節の味を大切にするため、（配置的には基本パターンがありますが）四季折々の食材で登場します。打ち上げ＝揚げから、旬のかき揚げもお詰めしています。

**いぶり大根漬**　今年も新しいいぶり大根の無添加漬を作りました。塩に着目しましたが、まだオケの中にあり、二月中旬頃開ける予定です。

**こんぶがっこ**　好評です。

**ミルフィーユ**　パイ生地とスポンジ生地を重ね、上部へマーマレードを塗り仕上げた洋菓子。

**山菜シューマイ**　大仙市産の山菜をシューマイの中に入れました。山菜のシャキッとした食感と、豚肉からのジュワーッと出る肉汁を楽しめる一品。

**きゅうりのパリパリ漬け**　夏に収穫したきゅうりを塩漬けにし、それを塩出しして、漬物として味付けしたものです。パリパリとした食感から「パリパリ漬」と称しています。

**わり干し大根漬**　素材の乾燥させた大根と人参は、漬物用として太目に切ってあります。歯ごたえがよくて人気です。

**千枚漬**　高級感のある千枚漬を大曲でも作ってみました。「京千枚」という品種を栽培し、すべて手作業で漬けました。

**きゅうりのいっぱつ漬**　若い採り立てのきゅうりを漬け込み、焼酎を使用しているので味が変わらず重宝です。

**梅漬・梅干し**　完熟した梅を使った梅漬け、梅干しです。梅は剪定から収穫までを手がけ、丁寧に仕上げました。

## 「日々是好日」に生きる

高田洋子
（首都圏大曲会会員　旧姓　清水）

首都圏大曲会二十年と伺い、月日の流れの早さに驚いてしまいます。平成元年から始めたフラダンス。帝国ホテルなどで開催された大曲会総会では、十七年間のわたり出演させていただきました。

会は毎回盛会で、大曲市長を初め市議会や商工会議所や農協の代表など賑々しく出席されました。

最近は大曲の大イベントである花火大会が映像で披露されたり、懐かしいお菓子や産物が並び、参加する都度幼い頃の思い出が脳裏を駆け巡ります。父母兄姉と過ごした日々が鮮やかに思い出されて、ふる里が恋しく、懐かしく、胸にこみあげるものがあります。

振り返ると、時代は昭和から平成に変わり、戦後の復興を経て、東京オリンピックが行われ、アメリカンナイズが進む中で、経済や文化の発展は目覚しいものがあります。子育てに追われていた子どもたちも、ふと気がつくと最早四十代後半となり、孫たちも高三、中二、小三とそれぞれ新しい時代の流れの中で、日々成長し、心配ながらも楽しみのひとつです。

二十年間続けたフラダンスの仲間の中で、いつしか私は長老？となり、三世代めの孫世代に入り、今更ながらびっくりです。

青春時代はバスケットの選手としてアジア大会優勝を経験。その後フラダンスのサンフランシスコ、ハワイで行われたcomp（大会）で日本初の優勝を経験しました。そしてコナクプナcompでは三年連続優勝と、それまで自分が描いてきた「夢」を実現させることができました。サポートしてくださる周りの方々への感謝の気持ちは決して忘れることができません。

最近はわが身の健康管理に留意しながら、ハワイの先生より本場のフラを直接伝授して頂き、私の終わりのない奥深い芸の道への挑戦は続くことと思います。

現在は子どもから八十歳代の大人まで、楽しく健康フラを心がけ、私なりの「夢」をこれからも追い求め、常に前向きに歩んで行きたいと考えております。

時代が変わり、地球の温暖化問題から高齢化にともなう諸問題、人種、思想までを取り込んだ難しい問題と、まさにグローバルな課題が山積され、ここに人間が生きることの難儀さを感じます。

今こそ国・地域を越えて「一期一会」の気持ちを大切に、他人への思いやり、優しさと、お互いに笑顔を失わないこととこそ大切なことと思います。常に前向きに、「日々是好日」に思いながら過ごしたいと願っています。

ふる里大仙市と首都圏大曲会の発展を祈りつつ。

Aloha Mahalo nui loa!!

（感謝の意）

## 思い出の中のふるさと

佐藤重光（首都圏大曲会幹事）

古教照心……という言葉があります。私はこれまで故郷照心と重ね合わせて、ふるさとを慕い偲んできました。そしてこれからも同じ思いで歩んでいこうと思っています。

平成元年、当時の高橋司大曲市長の発案で、首都圏大曲会が誕生しました。早いもので今年二十年目の節目を迎えました。

発足当時は、高橋市長をはじめ市役所の担当の方々を交え、委嘱された約二十人の在京世話人との打ち合わせ会が熱心に行われました。代表世話人に、テレビ朝日の花形アナウンサーとして活躍していた棟方宏一さんを選出し、大曲と首都圏との情報交流が頻繁に行われるようになりました。

やがて時代が流れ、平成十五年には高橋市長から栗林市長に変わり、棟方代表世話人から大釜茂璋会長へバトンタッチがなされました。大曲会の運営も会員による自主運営に切り替わり、目下新しい幹事によって、記念すべき二十歳誕生日のお祝い行事に取り組むことになりました。

ところで大釜会長の会運営のコンセプトは「懐かしい我がふるさと・大曲」。大曲は、音と光と水の田園都市…この町には毎年八月、全国の花火師たちがその技を競い合う、通称「大曲の花火」全国花火競技大会があります。今では七十万人を越す大観衆を集める大会となり、最早懐かしさの領域をはみ出た日本一の花火大会として知られるようになりました。全国に花火競技大会は数ありますが、内閣総理大臣賞が授与されるのは大曲だけというのも自慢です。こうして大曲の花火は首都圏に住む私たちにも、新たな創造と感動を与えてくれているのです。

故郷を離れて半世紀以上経ちました。この頃は年に四～五回はふるさとの土を踏みに帰ります。先祖、父母の墓参から、小、中、高校などを基盤にした様々な会。還暦の会はとっくに過ぎました。古希までは一息あるなとなれば、気を利かした幹事の方々から、あれこれの理由を付しては集合の声がかかります。ふるさとを忘れることなく、またふるさとの仲間も首都圏に住む私たちを忘れずに覚えていて声をかけてくれる、これは本当に有難度く嬉しいことです。

最近は都会と同じように、故郷の環境や境遇の変化も目まぐるしいものがあります。しかし私の心の中では、故郷訛りと人情は少しも変わっていません。

平成十年頃のことですが、当時の高橋市長から大曲会の世話人会に課題が提示されたことがありました。

大花火の桟敷は一か月もかけて立派に頑丈なものを作るが、これを一晩だけで解体するには本当に惜しい、そこでせめてあと一晩だけでも活用出来る方法はないだろうかと。本当にその通りだと今も強烈に心に残っていますが、私には未だ答えが見つかりません。誠に申し訳ありません。

子供の頃の思い出は限りなく懐かしく、今四季折々に甦ってきま

乳頭温泉郷
黒湯温泉
〒014-1201　仙北市田沢湖生保内字黒湯沢２－１
TEL 0187－46－2214　FAX 0187－46－2280
URL http;//www.nyuto-onsenkyo.com/

清酒 太平山　ヤマキク 味噌醤油醸造元
小玉醸造株式会社
代表取締役社長　小玉　真一郎
純米大吟醸　天巧（てんこう）
今回で通算６回目の金賞受賞。芳醇で繊細。気高さの中に同居する圧倒的な存在感、まさに太平山の真骨頂。全日空国際線のファーストクラスでも採用。太平山の伝統と技を凝縮した風雅のきわみです。
秋田純米　生酛（きもと）
秋田の蔵元初の快挙／世界で最も権威あるモンドセレクションで世界最高品質の称号である世界最高金賞を受賞しました。太平山伝統の生酛造りに徹した純米酒。冷酒からぬる燗まで、さまざまなスタイルでお楽しみいただけます。
〒018-1504　秋田県潟上市飯田川飯塚字飯塚34番地の１
TEL 018-877-2100　FAX 018-877-2104　www.kodamajozo.co.jp

す。春は神宮寺の種馬所跡の見事な桜見物、夏は玉川の水泳、秋は抱き返りのトロッコ紅葉、年の暮れともなれば正月準備の大曲の二五日街の賑わい。冬山から柴を引く橇に乗って雪山へ行ったことも懐かしい思い出です。

終戦後はそれまでの教科書に墨を塗って米兵の検閲受けたり。教室が不足して体育館を仕切った急造の教室で受けた二部授業。今から思えば遥かに遠い異次元の世界の話になりますね。時々見る楽しい夢は、いつだってあの頃の故郷が原点です。

ふるさとさん、何時も楽しい思い出の中に懐かしの夢を見せてくれて有難う。感謝。

また会おう　裏山霞む

浅い春　羽生

## ふるさと雑感

柿崎忠彦

（首都圏大曲会会員・静岡在住）

住み慣れた秋田を離れたのは十八歳のとき。内小友で生まれて直ぐに満州へ渡ったので、秋田へ戻って来たのが七歳。今でも秋田訛りが抜けず、「ふるさと」という言葉に反応しては、すぐさま四ツ屋に住んでいた頃の田んぼの広がりと、太平山と神宮寺嶽の山並みが目に浮かぶ。

七十年の人生の中でわずか十一年しか過ごしていないのに、そこがわが故郷なのだ。

就職して静岡には四十七年も住んでいるのに、ここには所謂「ふるさと」という感覚はない。不思議なものである。

四ツ屋に帰って自分の育った家の辺りを歩くと、泳ぎを覚えた「馬洗い場」の川、土手の脇にあった祠とそれを取り囲む杉林。懐かしいそのどれもが自分の記憶よりも小さくなっている。道そのものが狭い。昔はどれもこれも、もっと大きくて広々としていた。恐らく昔は自分が小さかったのだ。しかし想い出は昨日のことのように甦る。

田んぼの用水路で友だちと泥鰌掬いもした。自分の家には「たも網」がなかったので、正確に言えば自分がしたのは泥鰌つつきであり、掬う作業はほとんどさせて貰えなかった。それでも分けて貰った二、三匹の収穫を母が柳川にしてくれたのを覚えている。

なまず捕りもした。一尺ばかりの小枝の先に、これも一尺ほどの紐を結び、その先に針をつけたものを何本か用意をする。餌は小さな雨蛙を尻から通す。夕方、誰にも分からぬように、小枝を川岸の水面から少し下のところへ挿して歩く。蛙は気の毒にも不自由な姿で泳いでいる。一晩放っておいて、翌日の朝早く小枝をあげて歩くのであった。昨今では動物虐待、あるいは川に近づくと危険だからと、先生の許可も親の許可も出ないかも知れない。

田植えもした。自分の家には田んぼがなく、畑も自家菜園の域であったが、田植え休みになると、内小友にある母の実家まで四ツ屋から生保内線の線路を歩き、途中大曲農学校前の伯母さんの家で一休みさせてもらう。長い橋を渡り、大川西根を横切って、中沢の峠を越え、内小友の伊岡に着く。

先日車で訪れたときに、広い立派な道路から狭い道に入ってみたが、昔の峠は分からずじまいだった。道路特定財源が、あの峠を無くしてしまったのかと疑ってみたものだ。

田植えでは色んなことを手伝わされたが、メインの仕事は「こにゃうち」（小苗打ち？）と言うものであった。田の畦から植え手に苗の束を、ソフトボールのアンダースローよろしく投げて渡すのである。受け取ったとたんにビシャッと顔に泥が跳ねたりする。「もっとひぐぐ投げれ！」

数日して田植えが終わると祖母からお小遣いを貰って、またテクテク四ツ屋まで帰る。今では勿論田植えも機械化されて、あんな仕事はないだろう。小学生が鉄道線路を歩くことも禁止だろう。そもそも、そんなに遠くまで親が歩かせてはくれまい。車で送り迎えをするだろう。学校の帰り道すら一人で歩かないよう注意を呼びかける時代だ。

今の秋田の小学生は、長じてどんなふるさとの想い出を抱くのだろうか。

## 小林先生にお会いして

小松　美智子

（首都圏大曲会幹事・黒瀬出身）

「つっぺ先生」こと小林誠一先生が今年三月二日、千葉に来てくださいました。何年ぶりにお会いしたのでしょうか。

いろいろな節目（先生が校長先生に就任されたとき、私たちの厄年や還暦祝いの時など）の行事には、先生も参加してくださいましたので、お会いする機会はあったのですが、ゆっくりとお酒を酌み交わしながらお目にかかるのは初めてだと思います。

どこへ行こうかと考えたとき、非日常の空間を遊ぼうと考えて、ディズニーランドの「33」という会員制のレストランにいたしました。そこで子供の心に返ってお話しができたらと思ったからです。

五時から始まった食事は九時三十分の終わりまで延々と続き、話しもお酒も止まりませんでした。

考えてみれば三年間教わりましたが、先生の個人的なことは全くわからず、年齢も私たちと一回りしか違わないことも初めて知った状態です。先生のなまりのある英語の授業は私のすべてに影響を与えてくださり、就職まで左右されました。先生との出会いのお陰で英語が大好きになれて、本当に良かったと思っております。

その後も色々な方との出会いがあり、それぞれお世話になったのですが、大曲を考えるときは、いつでも小林先生を通して想い出している気がします。

人間は何処へ行っても、景色やお料理そのものよりも、どんな人に出会ったかの想い出のほうが強いのではないでしょうか。

一般にその生涯で交流する人は二百人ぐらいと言われているそうです。日本国内だけでも一億二千万人もの人がいるのに少ない気もしますが、年賀状の数を考えたりしてみても、そうかなと思います。ビジネスなどでもっともっと数の多い方もいらっしゃるとは思いますが、親しく交際するとしたら、やはり少なくなるようです。

だから折角知り合った方はやは

り大事に、そしてお互いに高められるように生きていきたいと思っております。

小林先生にお会いして、特にその気持ちを強く持ちました。今度お会いできる日まで、今よりはもっと進歩しているように努力してまいりたいと思います。

## さっちょう先生

大釜茂璋
(首都圏大曲会会長)

大曲高等学校がまだ大曲女学校と呼ばれていた、終戦間もない頃の話である。

当時私は小学校四年生になったばかり。その日の朝、起きて台所に行くと母が突然言ったものだ。

「今日は姉ちゃんの合格発表の日。大曲まで行って、その発表を見てきてほしい」と。

大曲の町は私たちが停車場と呼んでいた羽後四ツ屋駅から、汽車に乗らなければならない。しかもたった一人で。家から停車場までは歩いて三〜四十分はかかる。四年生の子にとって大曲は大都会だ。これは大変なことになった。どうしよう。私は完全に怖じ気づいてしまった。

六年生の姉は先日、大曲女学校を受験したのだ。それは知っていた。ところがその日は何故か父も母も忙しく、誰も合格発表を見に行っている暇がないという。弟や妹を連れて行ってもまだ頼りにならないし足手まといだ。だから今日は一人で行って来いという。発表された番号を見てくるだけだから何にも難しくない、頑張って行ってこいと父までが、不安で泣きっ面の息子の背中を押すように送り出したものだ。

重い足を引きずって停車場まで行き、どうやって切符を買ったか、どのように大曲の町へ一歩を踏み出したかは、まったく覚えていない。なにしろしっかり握った手の平がびっしょりと汗ばむ大冒険なのだ。

朝、母に言われたように、駅からは真っ直ぐ賑やかな通りを歩く。大きな橋を渡り、かなり歩いたところで、女学校へはこの道を行けばいいかと、歩いて来た女の人に聞いたことだけは記憶している。

やがて角を曲がると生け垣越しに白い建物が見えて、それが女学校だとわかったときは、さすがにほっとした気分になったものだ。

校舎は静まり返っている。どうしたんだろう。不安が募って学校の中や周囲を窺いながら、玄関の前を行ったり来たりしてみる。合格発表は学校の壁に張り出すはずだから、行けばわかると父は言った。しかしそんな気配はない。汽車の時間の関係で、合格発表よりもだいぶ前に着いたことなど、子供に気づく余裕などはない。

やがて眼鏡をかけた背の高い男の人が一人校舎から出て来て、壁の上に掲示を始めた。おいおい、俺がこっちから張り出すから、ちょっとキミ、そっち端を持っていてくれないかと、気さくに子供の私に声をかけてきた。

そこへ、「さっちょう先生、合格発表手伝います」と、慌てて校舎の中から若い男が駆け出してきた。

「いやいや、いいんだ。この子に手伝ってもらっているから」

あれっ、今手伝わされているのが合格発表か。えっ?それにしても、この人使いの荒い大人は一体誰なんだろう。

やがて合格発表の掲示を張り終わったその人は、ところでキミはこんなに早くから、ここで何をしていたのと話しかけてきた。突然大人に声をかけられ、

「姉ちゃんの合格発表を見にきたのです」

私はどぎまぎしながら、少しどもり気味に答えたものだ。なんだ、発表を見に来たのか。ところでキミの姉さんの番号は何番?

何番だったか忘れたが、握りしめて湿り気味の紙を見ながら番号を言うと、どれどれと掲示を見上げて探してくれた。

「おう、合格だ。ちゃんとあそこにある」

持っていた長い棒を突き差して番号を示してくれた。

私は何故か急に恥ずかしくなって、黙ってぺこりと頭を下げると、さっき通って来た道を一目散に駅へ向かって走ったのである。

やがて大曲女学校の生徒になった姉は合唱部に入り、あの日私が出会ったその人は、さっちょう先生と言って有名な音楽の先生と教えてくれた。さっちょう先生とは通称で、正式名は佐藤長太郎先生。姉は毎日家に帰ってからも、その日学校で練習してきた合唱の一節を楽しそうに歌う。女学校とはなんと明るく、ハイカラなところだろう。

さっちょう先生はどちらかというと、大曲よりも東京で活躍している先生だと、姉は女学校から女子高等学校に名称が変わってからも、ずっと自慢にしていた。

遠い昔の、女学校の合格発表の日の一シーンを鮮明に憶えているということは、子供ながらにそれだけ強烈な体験だったということだろう。

大釜温子。早いもので二十七回忌法要が三年前にすんだ。

グランドパレス川端グループ
http://www.yamanote-hotel.com/
感動を創造、発信する企業
GROUP-SYMBOL
微笑み・やすらぎ・感動
グランドパレス川端
山の手ホテル
フォーシーズン
ブライダルハウス
クリスタルサーカス『フォレスト』
葬儀専用施設『顕彰庵』

謹製 榊田分店
代表取締役 榊田真庸
〒014-0015 秋田県大仙市大曲栄町10番27号
電話 0187-63-4400(代表)
FAX 0187-63-4404
eメール:buntenjp@yahoo.co.jp



東京・九段下の首都圏大曲会事務局にて

◇座談会出席者（発言順）

棟方　宏一さん（大曲会前会長）
大山　信雄さん（大曲会副会長）
大友　律子さん（大曲会副会長）
斉藤　貞助さん（大曲会事務局長）
鈴木　繁さん（大曲会幹事）
古宮　理絵さん（大曲会幹事）
司会　大釜　茂璋（大曲会会長）

■ 首都圏大曲会創設20周年記念座談会

# わがふるさと大曲を語る

## 懐かしの山・川・森、思い出の学校、友の顔

### 大曲市と地元出身者の交流を目指して

**司会**　先日、前大曲市長の高橋司さんからお葉書を頂戴しました。それには大凡次のように書かれていました。

「在職中大曲会のみなさまには大変お世話になりました。大曲会が盛況裡に推移され、何よりも嬉しく思います。私も職を去って五年。私の最後の仕事は市町村合併事業でしたが、周辺七か町村のご協力のお陰で順調に終えることができました。

しかし『大曲』という名称を失ってしまったことは残念に思います。今後大曲という名が復活することはないでしょうが、大曲の歴史や文化、楽しい想い出や誇りは失いたくはありません。それだけに唯一の大曲の名を冠する首都圏大曲会の永続と発展を心からお願いいたします」

お葉書の文面から、前市長の大曲会にたいする愛着は一入のものがあることを感じます。

ところで大曲会が創設されて今年で二十年になります。今日はこれまで会の運営や今後の推進に関わる方々にお集まりいただき、想い出やこれからのあるべき姿、そして懐かしいふるさと大曲をテーマに、いろいろお話しをいただきたいと思います。

まず最初は、二十年前の大曲会はどういうところから、どんな動機のもとにスタートしたのですか。

**棟方**　会が結成されたのは平成元年ですが、準備はその前の年から始まっていたようです。



これは当時の高橋司市長の発案で、首都圏に住んでいる人たちと、企業誘致など経済的な意味合いを含めて交流をしたいという考えがあったものと思われます。しかし、当初はあまり難しいことを考えずに、みんなで気楽に語り合える会を持とう、大曲出身者で首都圏に住んでいる人たちや、大曲に何らかの所縁のある方々と地元大曲との精神的なつながりを持とうという趣旨が働いていたようです。

そこで東京初め関東圏に住む該当者がどのぐらいいるかを調べたところ、なんと八千人もいたそうです。

これではとても全員に呼びか

けるのは難しいと、とりあえずは東京二十三区内に住む人々を対象に大曲会結成の賛否を調査し、賛成者が多かったということから大曲会は組織されたと聞いております。

## 第一回総会はサンケイ会館で開催

**司会**　第一回総会はどこで開催されたのですか。

**棟方**　第一回の総会は大手町のサンケイ会館で開催されました。丸テーブルを囲んでの会でしたが、二百人だったか、二百五十人だったか、当初考えていた以上に大勢の方々の参加で大変な盛会でした。出身地区同士で写真を撮ったり撮られたり…。みんな楽しそうにはしゃいでいましたね。その挨拶が終わったと思ったら、「ちょっとちょっと棟方さん」と言って呼ぶんですよ。

何だろうと思って傍へ行くと、こんな趣旨の会だからぜひ会長をやってくれと…。

何のことかと思っている間に会場内から拍手が起こり、そのまま引き受けざるをえなかったということです。

そこで、このような会は世話役の存在が大事で、私にその世話役をやるようにということでしたら、喜んでお手伝いをしましょうということになったものでした。

するとそこへ何人かの方々が「ぜひやりましょう」と寄ってきてくださり、その方々を中心に二十人で大曲会世話人会を組織しました。

そのときのメンバーの中に今も活躍されている大山さん、佐藤重光さん、富樫さんなど、それに、井上さん、鈴木さんのお兄さんの萩原さんもおりました。

**司会**　大山さんが協力しようとした動機は何だったのですか。

**大山**　地元では今でもやっていることですが、男の厄年といわれる四十二歳のときの梵天あげに、大曲へ帰ったことがありました。僕はその幹事役だったのです。



そのときの仲間に市役所に勤めている人もいて、今度、サンケイ会館で大曲会が開催されることになったという話しを聞いたように記憶しています。

そこで、東京で地元の仲間に会うことの出来る会ができると、何はともあれ懐かしさが先に立って参加したということです。

東京に出て来てからは、まったく知らない人との接触が続いていて、どことなく寂しい生活を送ってきていましたので、生まれ育った国もとの雰囲気を肌で感じることができて、総会ではとても感動したことを覚えています。

「んでねじゃ」などといった、参加した人々の言葉の訛りも妙に親しみを呼び、懐かしかったのかも知れません。

その時に何かぐっと胸の底からこみ上げるものがって、この会はぜひ続けて行くべきだと思いました。

**棟方**　大曲会が創設される前にも、なんとか仙北会、仙北なんとか会といった名称の会がいろいろ

PDS
株式会社 PLAN DO SEE
本社
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-6-8
TEL 03-5366-7890
FAX 03-3355-7556
支社
〒010-0951 秋田県秋田市山王5-8-7
TEL 018-866-0827
FAX 018-862-2249
一級建築士事務所 東京都知事 50360号
宅建業 国土交通大臣（1） 7138号
測量業 国土交通大臣（2） 26942号
代表取締役
石井 雅範

グラフィックデザイン、ウェブデザイン、広告・販促企画
concept
株式会社コンセプト
〒010-0923
秋田市旭北錦町3-50
tel.018-853-9271
fax.018-863-6330
Email info@concept-inc.co.jp
URL www.concept-inc.co.jp

(株)三戸印刷所　大仙営業所
〒014-0016　大仙市若竹町24-4
tel.0187-62-6330　fax.0187-62-6352

組織されていて、何回か出席もしてみました。

しかしどの会に行ってみてもどこか違う。形式張ったところが目立ち堅苦しい。そこには言いようのない違和感がありました。それでもこういう趣旨の会は、いろいろな意味で必要だと思っていましたから、大曲会の結成には反対する理由もなかったのです。

**司会**　サンケイ会館の大曲会はほかの会とは違っていた？

## 堅苦しさを排除した気安さが魅力

**棟方**　大曲会は最初からオープンでした。堅苦しさもなく馴染めました。面白いことに最初は参加費も男性と女性は違っていたのです。女性が安いんですよ。

**司会**　飲むことをメインにした会だったということ？（笑）

**棟方**　そうですよ。（笑）二回目も会費の格差をつけてやりましたが、どうもこれは不平等だと高橋市長に直接談判したんですよ。ところがそうはいかないと市長は言う。でも東京ではそれは通らないと言ったら、それなら仕方がないということで、三回目からやっと男女平等に…（笑）

**司会**　齋藤さんがこの会に参加したきっかけは？

**齋藤**　大曲中学校卒業の会に、十三年会があります。棟方さんもそのメンバーですが、そこからの呼びかけだったと思います。サンケイ会館で開催した第一回の会は知りませんでしたが。



**棟方**　世話人会はスタートしましたが、仕事の関係などでなかなか出席出来ない人も出てきたのです。

そこでもっと気心の知れた人が傍にいて欲しいと、まずは気心の知れた齋藤さんや同期の仲間四人ほどに話しかけメンバーになってもらったのです。

**司会**　鈴木さんが入会したのは世話人として活躍したお兄さんの影響ですか。最初の印象はどうでした？

**鈴木**　初めて総会に出席したとき感じたことは、意外に若い人が少ないということでした。知っている人はみんな年上ばかりで、声をかけられたと思うと「繁ちゃん」って、まるで餓鬼扱いですからね。（笑）これじゃ自分世代の若い人を連れてくるしかないなという気になって、同級生に積極的に声をかけ、同級生みんなで参加することにしたのです。



**司会**　大友さんは、今では大農の大変な顔役（笑）ですが、入会のきっかけは？

**大友**　さっき話しが出ていた世話人会の井上さんが、大農の大先輩だったのです。たまたま私が大農の交友会のお手伝いをしていたものですから、ぜひ入りなさいと井上先輩に誘われたのがきっかけです。



誘われたというよりは命令のようなものでした。（笑）

参加してみて感じたことは、さっき鈴木さんも話していましたが、年輩者が多くて戸惑いました。しかし当時の高橋市長の奥様が大農で恩師でしたから、できるだけ出席しようと自分なりに義理だてたわけです。（笑）

それでも当時の大曲会は市役所が主体となって進めてくれる会でしたから、運営が比較的にラクなわりには楽しめる会だと思いました。それにしても若い人が少ないところが気になっていましたが。（笑）

**棟方**　たしかに大友さんが世話人会メンバーになったのは高橋市長の推薦でした。

**大友**　奥様が高校の恩師だったことから、市長に言われると断るわけにはいきません（笑）そのときついでに大川さんも誘ったのです（笑）

**司会**　大川さんはついでの入会だったんですか（笑）

**大友**　ついでというわけではありませんが（笑）、大川さんはなかなか世話好きだし、いろいろな会に顔を出す実力者ですから…

## 大曲会の魅力はふるさとを語る懐かさ

**棟方**　若い人にも何かと声をかけてきたのですが、なかなか定着しない。

**斉藤**　年代の差なんですね。中心になっている人が五十代、六十代となると、三十代の人はどうかなとなる。これだけの年齢格差があると、どうしても一緒にお酒を飲むというふうにはなら

ない。若い人同士、同世代のグループならわいわいできるが、ふるさと会のような集いになるとそれが難しくなるようです。

**棟方**　これはある意味においてふるさと会の宿命的なものがあります。ある一定の年齢になると参加してみようという気になる。だからこれから増えてくると思いますよ。

**司会**　若い人にとって楽しめる場はいくらでもあるのです。大学を卒業してすぐの人に参加を呼びかけても、なかなか入ってみようという気持ちになってくれない。むしろ年輩者が多くて窮屈だぐらいの感覚が先に立ってしまうようです。お金を出して窮屈な思いをするのは勘弁してほしいという。

　また四十歳前後となれば勤め先でもそろそろ幹部となって、活躍が期待される年齢。大曲会のために身を削るにはちょっと早いというあたりが、若い年齢層のホンネのようです。

**大友**　自分の家庭も、会社も、何もかも忙しくなる頃ですから、参加してみようという気はあっても、身動きが取れないということでしょう。

**司会**　一つの傾向として人間は一定の年齢に達することで、ふるさとを懐かしいと思うようになるようです。それは五十歳なのか六十歳なのか、人それぞれでしょうが。ふと自らの来し方に思いを馳せる年齢になって、その人の心の中で大曲会の存在がクローズアップされるでしょうから、その時自らの意志で参加する、ということでいいのではないでしょうか。

**棟方**　ふるさとを同じにする人が集まって飲んだり食べたり。大曲会はこれだけでも十分存在価値があると思います。大曲会がスタートしてかなり経ってからのことになりますが、親睦を兼ねて何か他のこともやってみようという声が出て、それではということで大曲の花火見物ツアーをやりました。二十人ほどの参加がありましたが、これはなかなか喜ばれました。

　ただし泊まる場所は公益センターに雑魚寝でしたが（笑）、それも変わった雰囲気でオツなものでした。

　東京と大曲の子どもの交流会もやりました。ほかに大曲中学校の修学旅行を利用して、企業訪問の受け入れもやりましたね。

**大山**　ゴルフ大会もやりましたよ。三回ぐらいやりましたね。

**棟方**　趣味の会として小山さんがフラワーアレンジメントを指導してくれました。

**大山**　食べ歩きの会も企画されましたが、担当者が会社で忙し過ぎて、結局これはできませんでした。いろいろなお店を訪問したり、珍しいものを食べたり、担当者も含めてやる気満々だったのですが。

## 忘れられない　春先の雪解け風景

**司会**　思い返せばいろいろなことに挑戦したり楽しんだりしながら、二十年という歳月が経過しました。首都圏大曲会の基本コンセプトは「懐かしのふるさと・大曲」ですが、みなさんは大曲といえば何を思いますか。当然花火とくるでしょうが、大曲の花火は別格として…。

**大山**　私は風景そのものですね。雪も消えかかり、土手にバッケが顔を出す。雪解けで水かさの増した川岸にネコヤナギが揺れる光景は、東京で暮らす今でも思い出すだけで、何ともいえない心躍るものがあります。

　春が来て学年が一年あがり、また一歩大人に近づくという感覚もあったのでしょう。東京で

ネットワークシステムの企画・開発・管理運営
出張作業いたします

〒171-0022　豊島区南池袋２－36－１　OSOHO南池袋305

**株式会社　シエンサービス**

代表取締役　佐　藤　春　樹

TEL 03-5953-3025　FAX 03-5956-6302
E-MAIL：mail@shien-service.jp

すべてのバス事業者のために
バス運行業務のお手伝い・通行料の軽減

〒171-0022　豊島区南池袋２－36－１　OSOHO南池袋305

**関東観光バス事業共同組合**

代表理事　細　谷　正　光

TEL 03-5953-6301　FAX 03-5956-6302
E-MAIL：kantou-busl@dance.ocn.ne.jp

ふるさとを思うとき、それは雪の積もった光景よりも、春が来たという雪が解け出す頃の景色がいつも懐かしく、目の前に浮かんできます。

**司会**　大曲の町から見た西山の風景などは…

**大山**　私は大川西根出身で、その西山の麓で育ったものですから、奥羽山脈や遠く岩手の山並みを見て育ちました。

　春になって道路の雪が消え出し、遠くの山に雪形が現れ、やがて桜が咲き、草木が萌え出す頃は本当に楽しいときでしたね。

**司会**　昔は冬がやたら長かったように感じました。

**鈴木**　もう十一月にはいると、吐く息は白かったし…

**棟方**　正月に雪がなければ何となく寂しかった。

**古宮**　私は父の勤務の関係で日本各地を転々としましたので、生まれは大曲ではありませんでした。中学は四ツ屋中学校でしたが、国道105号線を自転車で通いました。



　秋、稲刈りがすんだ後、稲わらを燃やすと、あたり一面、ガスがかかったように真っ白に靄が立ち、その光景とともに稲わらのくすぶる匂いが印象に残っています。

　秋が深まるにつれて、紅葉に彩られた奥羽山脈の色合いが、段々麓の方へと変化していく光景は忘れられません。

**大友**　向こうの紅葉は東京のそれとは違って、一段と色鮮やかですよね。同じ赤や黄色でも濃さを感じます。

**鈴木**　丸子川と雄物川が交わるあたりの上方には太平山が見えて…お薬師さんあたりの光景が大曲で育った人の原風景になっているのではないでしょうか。忘れられない景色です。

**棟方**　丸子橋から見る丸子川の流れ。斉藤さんの家あたりから見る景色でしょうね。あの川岸で目立った柳の木はもう切られてしまったのでしょうか。なくなったでしょうね。

**斉藤**　大野源二郎さんの写真集「なつかしの大曲」にはちゃんと写っています。

　しんしんと雪降る朝の丸子川周辺の静けさ、解け出した雪の下からバッケが顔をのぞかせる鮮やかな春の色。私にとっては懐かしく思い出すふるさとの風景です。

**鈴木**　固まった通りの雪を割っていくと、「春だぞ！」という躍動するような気持ちが湧いてきたものです。

**斉藤**　春先の道路は馬糞だらけだった。（笑）

**大山**　まだそれほどに馬そりが使われていたということ。

**鈴木**　下駄スキーを履いて、馬そりの後ろにつかまって引っ張ってもらって。よく叱られたもんだ。（笑）下駄の下に阿部鍛冶屋へ行って金具を打ち付けてもらって…。懐かしいなあ。

**棟方**　あの下駄スキー、ドッコとか言わなかった？

**鈴木**　うん、確かドッコって呼んでたな。馬そりが通った後はそこだけがてかてかに光っている。

　ママ食った後に…それって家をとびだしては、馬そりの尻にぶら下がってた。（笑）

## 懐かしい学校生活　思い出の先生

**鈴木**　夏になるとガキ大将が先に立って、お薬師さんで一週間ぐらいの合宿をして勉強を教えてくれた。

**大山**　そういえば、あちこちの学校から沢山来ていたなあ。肝試しなんかもやって。

**鈴木**　いろんな悪いことも教えてくれたなあ。（笑）夕飯食った後かくれんぼやって、鬼が数を勘定してる間に、みんなで示し合わせて、こっそり家に帰っちゃったりして（大笑い）

**司会**　学校生活で思い出すことは…

**棟方**　風景ならさっきいろいろ話が出た通りですが、僕は今でも思い出すのはやっぱりあの頃の友達のこと。

　高校から大曲を出てしまったので、中学時代の友達がとても懐かしい。大曲に帰るたびに集まっては飲んでいます。その都度友達っていいなあ、有難いなあと思う。

**大山**　学校での話といえば立たされた思い出ですね。

　小学校三年生か四年生だったと思う。何か悪いことをして先生に叱られて、山口という友達と二人、長い廊下の端に立たされたことがあります。大曲の町から通っている女の先生でしたが、怒ってしまったのか、それとも立たせたことを忘れたのか、夕方になって先生は自分の家に帰っちゃった。

　そこんところ子どもだったんだね。帰っていいと言ってくれる人がいなくなってしまったから、そのまま立っていた。やが

て暗くなって、もう一人のワルがしくしく泣き出した。こっちも泣きたくなったというのに。

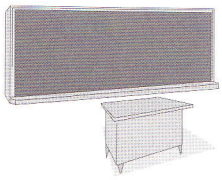
八時ごろになってようやく姉が捜しにきてくれました。暗闇に立っている二人を見つけ、そんなところで何していると。立たされている、と答えたが理由は言えない。自分たちが悪いことをして立たされているのだから。姉もわかっているという顔をして、それ以上は何にも聞かなかった。

でもあの時は本当に怖かった。夜の学校の廊下はしーんとして真っ暗。それは怖かったなあ。今でも思い出すだけで怖い（笑）

**鈴木**　俺は何かいたずらをして、柱に縛られたことがあるよ、先生に。相当のいたずら坊主だったからなあ（笑）

**古宮**　あんまりおしゃべりでうるさいからと、口にセロファンテープを貼られた子がいました。（笑）

**鈴木**　それでいて、そういう先生のところにはよく遊びに行ったし、懐かしい。



## 怖かった先生ほど思い出が多い

**大山**　そういう先生こそ教育に熱心で、生徒もそこのところはよく知っている。悪いことをするとよく叱ってくれたのです。叱られることで、こういうことをするといけないんだ、怒られるんだということを身をもって教えられた。

**棟方**　裏に金を貼ったスリッパを履いている先生がいた。悪いことをするとそのスリッパでピシッと引っぱたかれた。「鼻ねじり」というお仕置きもあった。なにしろ全体責任だから。誰かが悪いことをすると、全員並ばせて、端から鼻をねじっていく。これが猛烈に痛い。そしてあるときは、細い鞭を持っていてピシッとくる。太い鞭でガンとやられたほうがまだ痛くない（笑）

今でもその先生に一番会いたいと思います。

**大山**　「下駄っこ」というあだ名の先生がいた。厳しい先生だったが、ある日、下駄先生の時間に早飯を食ってみせると友達にいいカッコをしたことがあります。そこで二時間目の途中でこっそり食べだした。ところが見つかってしまったからたまらない。びしっと鉄拳が飛んできて、大山、お前は太い野郎だ！と。

**鈴木**　そうそう、「太い野郎だ」とよくいう先生だった（笑）

**斉藤**　冬のストーブは生徒が順番で係りでした。ストーブ当番は朝早く学校へ行って、点け木を使って火を燃す。あれが結構楽しかった。

昼になると弁当を暖飯器に乗せて温めるが、漬物の匂いが臭くて…（笑）

**司会**　昼近くになるとストーブの周りには弁当が並んだ。中に納豆を入れてきた人がいて、これには参った。

**大友**　父は憲兵あがりですごく怖かったから、私は悪いことをした記憶はあまりありませんね。学校でもいい子でした。女の子だから格好つけていたのかも…。内小友衆は総じて大人しいのです。大山さんの大川西根と違って（笑）

思い出といえば余目公園の桜は綺麗だった。今でも思い出します。

内小友は交通の要所に位置していたと思いますが、角間川の町とも近く、結構豊かな土地で、みんなのびのび暮らしていたよ

心と心のふれあいのスペース
大曲エンパイヤホテル
TEL 0187-63-1131　FAX 0187-63-1541
姉妹店　本荘グランドホテル・大仙市役所食道

株式会社 M.I.S. インターナショナル
代表取締役　小松　美智子
（三育学院短期大学非常勤講師）
〒260-0045　千葉市中央区弁天2-23-1
TEL：043-254-4757　FAX：043-254-4796
E-mail：mis@mis-i.co.jp　http://mis-i.co.jp

うに思います。

**鈴木**　大曲中学校は線路の近くにあったから、長い釘を列車に引かせて、それを阿部鍛冶屋へ持って行って小刀を作ってもらったりしました。

**棟方**　堅雪のころも懐かしい。普段の通学路は、ぐるっと回っていかなければならないところが、堅雪の日は真っすぐ雪を渡って行ける。これは嬉しかったなあ。鼻の先が冷たくってね。今は雪が少ないから、堅雪そのものがないのかも知れない。

**大友**　堅雪は楽しかったですね。普段通れないところが通れて近道になる。

## 忘れられない大曲の味

**司会**　秋田はなんといっても漬物大国。いろいろな漬物が、その家独特の味を出して美味しい。食べ物で懐かしさを語るとなるとどうですか。

**大友**　ふかし漬けは美味しいですね。あれは茄子を蒸してから漬けるのでふかし漬けというんでしょう？

**大山**　あれは蒸すというよりも干すのではないですか。乾燥させた茄子を麹と塩で漬け込む。今は昔に比べるとうんと甘くなっているから、味も随分違っています。子どものころはあれで、ご飯一杯余計に食べられました。

**大友**　豆腐のカステラも懐かしいですね。

**司会**　豆腐カステラは最近こそあちこちで作っていますが、もともとは鑓見内の豆腐屋が作った豆腐菓子でした。運動会、学芸会をはじめ冠婚葬祭の引き出物としても懐かしい味です。

**大山**　その後、花館でも作っていましたね。今、お新香で食べてみたいと思うのはナタ漬け。ところが最近食べてみたら、昔とはすっかり味が変わっていました。都会風になったのかなあ。

あれはシガっこが張っているようなやつを、ばりばり食べるところにホンとの美味しさがある。最近のナタ漬けは都会に迎合してしまった。

**大友**　「ふるさと便」の山田さんのところでもナタ漬けはやっています。

あれは時期的なもので、タイミングを逸すると悪くなってしまいますから。最近のものは麹を入れて甘めに作るので、あまり日持ちがしないようです。

**棟方**　僕も田舎の漬け物では、ナタ漬けが一番好きだなあ。

**大山**　あれも地元で食べなければダメだね。友達が、持って行くかとわざわざ氷まで入れて持たせてくれたけれど、やっぱり東京で食べると味が落ちる（笑）

**司会**　信州の野沢菜みたいなものかなあ。あれも寒い信州で食べると美味しい。

**大友**　麹が発酵して甘くなってしまうんでしょう。正月過ぎ、二月ごろ田舎へ帰って食べるのが一番…。

**司会**　あんまり切れないナタで切るほうが美味しいナタ漬けができるといいます。そのほうが味がよくしみるということでしょうか。

**大友**　東京のべったら漬けとは違うんですか。

**大山**　べったら漬けは甘すぎる。そしてあれはよく切れる包丁で大根を切る。なた漬けとはまったく違うものですね。

**鈴木**　鯰釣りもしました。釣るというよりは、朝早く起きて、誰かが仕掛けておいたやつを捜す。岸辺をずーっと探って歩いて行くと、釣れている仕掛けに当たることがある。

**司会**　相当のワルガキ（笑）

**古宮**　凍み大根というのもありましたね。

**大友**　切り干し大根のこと？

**鈴木**　切り干しとは違う。農家の軒下によく下がっていましたよ。干し葉もありました。冬場のビタミン補強剤。（笑）

**古宮**　よく煮物にして食べた記憶があります。甘辛く煮ると美味しかった。

**司会**　凍み豆腐というのもあった。あれも変わった噛み心地がして美味しかったなあ。

**大友**　これからの時期、竹の子も美味しいですね。あれは懐かしい味。私はいつでもストックしています。栄養なんかはそんなにないけど。

**鈴木**　竹の子とカドと若布を一緒に煮付けたものも美味しかった。カド貝焼きなんてのも懐かしい。サシビロ貝焼きなんてのもうまかった。

**司会**　雪がとけて春がやって来て、青物が食卓に上がるだけで嬉しくなる。雪国で育った人でなければ、この喜びはわからないものでしょう。

## 春先に集中している〝懐かしい大曲〟

**司会**　先ほどからみなさんのお話を伺っていますと、それぞれの人の懐かしさは春の季節に集中していますね。



姫神公園から見下ろす春霞の中の玉川橋

**大山**　暗いところから明るいところへ飛び出るような、躍動する楽しい季節ですから…。半年近くも雪の中での生活を過ごしていると、どうしても春が待ち遠しい。

**大友**　雪が消えるころの雪国の楽しさは、雪のない地方の人にはわからないことでしょう。そこには、気持ちの高揚があります。今は雪が少なくなったのでそうでもありませんが、半年も雪に閉じ込められた生活から抜け出したときの開放感は何とも言えませんからね。

　土が見えて、そこからヒロッコが顔を出すころの嬉しさは、もうその光景を思い出すだけで懐かしさが募ります。

**古宮**　刻々と山の色合いが変化していく秋の紅葉も素晴らしいと思いますが、厳しい冬を通り抜けて訪れる春には、この地で過ごした人でなければわからない楽しさと嬉しさがありました。威勢よく流れる雪解けの小川の光景にも親近感を覚えました。

　冬に対比して春となれば、暖かく明るい春の日差しへの、憧れにも似た懐かしさを感じたものです。

**司会**　ふるさとの懐かしさを語り出したら、もうまるで春の雪解け水が堰を切って流れるように、話は後から後から湧き出てくるようです。

　会員の一人ひとりが語るいろいろな思い出の中には、特に春に限ったことではなく様々な懐かしさが一杯に詰まっているようです。

　大曲も市町村合併により大仙市と名称が変わりました。栗林市長を中心に市民、行政の各機関がそれぞれ課題を抱えながらも一丸となって、誠心努力をしていることは、先日の大仙市ふるさと会懇話会で、小松部長からも報告がありました。また毎月送っていただく広報「だいせん」でもご覧の通りです。

　首都圏大曲会としても、新しい私たちのふるさとの動きに常に関心を持ち、その発展に力強いエールを送りたいものです。

　その第一歩は、私たち一人ひとりがふるさとを懐かしく思うところから始まります。懐かしく思う心が、そのままふるさとを愛する心につながっているのです。

　私たちは、私たちのふるさとに誇りを持ち、ふるさとのみなさんと手を携え、確かな発展を目差して、ともに努力を重ねてまいりたいと思います。

　今日はお忙しいところをご出席くださいまして有難うございました。ますますご活躍ください。




“魚と遊んで遊ばれて”

本社

新木場工場　新砂工場

ビル事業部

トトヤ魚屋のオヤジやってます

ふるさとのみなさんお元気ですか

〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目8番5号　電話03-3640-6411(代) FAX03-3644-5832

おかげさまで創業45周年 45th 21世紀へ

東京水産工業株式会社

代表取締役社長 佐藤重光




# ふるさと探訪ツアー

## 参加者募集！　どなたも大歓迎

大曲市が大仙市となり、会員の皆さまがふるさとに抱くイメージは如何ですか。新しい田園交流都市に向け、今大曲は変革への一直線をひた走りに走っています。そこで、変わり往くふるさとを自分たちの目で見てみようと、首都圏大曲会創設二十周年を記念して、「ふるさと探訪ツアー」を企画しました。どなたも参加できる格安料金です。ご家族や仲間の皆さんとご一緒にぜひご参加ください。

**日　程**　平成20年10月３日（金）～４日（土）

**対　象**　首都圏大曲会会員ご家族・知人・その他ご関係者

**参加費**　一人34,000円
往復交通費（新幹線利用周遊券）３日夜、大曲エンパイアホテルで開催の地元交歓パーティー参加費を含みます。

**宿　泊**　各自ご自由です。なおエンパイアホテル宿泊希望者は、一泊5,000円のところ4,200円に割引きされます。

**その他**　１．交歓パーティーには、地元のご親戚、知人、同級生などにご参加をお呼びかけください。参加費は首都圏大曲会会員（一人5,000円）と同じです。
２．こまち乗車券は一週間有効の周遊券です。ツアー終了後、地元でゆっくりするもよし、東北一周旅行をお楽しみいただくことも可能です。

**申込み方法**　氏名・住所・参加人数・電話番号を添えて、事務局へご連絡ください。詳細な案内書をお送りします。

**事務局**　齋藤貞助
電話　03（3322）4682
大釜茂璋
電話　03（5213）2028

### ◇ふるさと探訪　スケジュール

十月三日（金）朝、東京を出発した一行は、ツアー参加者の歓声とともに一路爽秋のふるさと・大曲へと向かいます。車中で食事をとり、昼には大曲駅到着。スケジュールは次の通りです。

午後一時　市長表敬訪問
一時半　姫神公園から周囲を一望
二時十分　学校給食総合センター見学
二時四十五分　農業科学館見学（平成18年開通の大曲西道路を経由）
三時四十分　古四王神社見学（地元ボランティアの解説）
四時十分　平成19年全線開通の駅東線、国道十三号線神宮寺バイパス（車窓より旧玉川橋解体状況）
四時五十分　土地区画整理事業（大曲駅周辺の変貌見学）丸の内交差点、新北都銀行前、グランマート前、山下医院前交差点（中通線アンダー化工事見学）→懇親会会場へ（大曲での行動は市当局提供のバスで移動することになっております）

凛として華麗・伝統

# 大曲の花火

案内人　賢木新悦
（NPO法人大曲花火倶楽部　会長）

平成十九年八月二十五日、大曲の雄物川河川敷は、身動きが取れない人々で埋め尽くされました。主催者発表七十六万人、一昔には信じられない観客数です。

標準審査玉～「昇り曲導小花付き三重芯変化菊」と玉名がアナウンスされると会場が一気に興奮の坩堝に達します。

平成元年の観客は三十万人、年々増加の一途をたどり、収容人数をはるかに超えるうれしい悲鳴。安全面には格別の神経を使う大会でもあります。

## 何が日本一

花火の日本一にはいろいろあります。例えば東京・墨田川は歴史と観客数で、大阪・富田林のＰＬ教団は十万発の打上数で、新潟の長岡、片貝は三、四尺玉の大きさで日本一となっております。それでは大曲は何が日本一かと言いますと、それは紛れもなく「質」に尽きます。競技は迫力があり玉込めが難しい尺玉二発、全国で珍しい昼花火、創造花火、総打ち上げ数が一万五千発と玉数は多くはないのですが、全国の花火師が認める内容で、競技大会日本一です。

平成十二年から内閣総理大臣賞を授与され、最も権威のある大会になりました。

## 歴史

明治四十三年諏訪神社の祭典の余興にと、町の有力者、佐々木吉郎衛門、榊田清兵衛、池田文太郎氏らが発起人となり、仙北新報社を主催者として、第一回奥羽六県煙火共進会を開催したのが始まりです。最初の頃は、全国の花火師が花火玉を風呂敷に包み、汽車に乗り、自慢の花火を打ち上げに参加する大会であったようです。



大曲市街地に開設した花火庵

当時の花火師は専門職業ではなく道楽が多く、自分で作り、自分で打上げていました。花火の種類は、割物で丸く色彩も単調でした。しかし電気事情が悪い時代でしたので、花火が輝いて明るく見えたものと思います。

その後戦争や気象変動等によって十六回の中止がありましたが、戦後復活しました。しかし、終戦と共に各地で花火大会が行われるようになり、秋田県内の横手、能代、本荘の大会も大きくなり、また大曲がシーズン最後の大会であるために、観客数も激減し、大会運営が厳しいものとなりました。

## 創造花火

そこに登場したのが佐藤勲氏です。先輩に昭和三十二年、企画委員長を指名された佐藤氏は茨城県土浦市にしか授与されていなかった通産大臣賞を、昭和三十八年大曲の花火への授与に成功。

また、従来の割物花火からの脱皮を図る為に花火師に三角、四角、花模様等を制作依頼するが猛反対に遭っています。しかし、佐藤氏は諦めることなく昭和三十九年、ショーで観客を楽しませるコンセプトで競技種目に創造花火を加えます。今までの花火とまったく異なる創造花火

國學院大學
大友律子
（首都圏大曲会副会長　内小友出身）
〒145-0061　東京都大田区石川町２－33－１－406
Tel／Fax：03－3728－0280
eメール：zwu00100@nifty.com

澁谷一男 税理士事務所
税理士 澁谷一男
〒113-0033 東京都文京区本郷１－21－７－601
TEL 03-3811-0326　FAX 03-3811-7693



広大な万華鏡を覗くように
夢幻の世界が天を揺るがす大会提供花火



打ち上げごとに
大観衆がどよめく

が観客の支持を得たことから、全国区になり現在の日本一につながりました。

その後、割烹川端さんの雄物川河畔の打上場所が、昭和四十四年に大曲捷水路に移転。西山の素晴しいロケーションをバックに金谷橋と姫神橋の間千六百メートルの左岸が打上場、右岸が観客席と、これは日本トップの打上会場です。

また、創造花火の発想を元に、日本の花火技術の向上、観客に感動を与えるために大会提供を創設し、現在は打上幅五百メートルの、音楽とのコラボレーションが大曲の花火の目玉となっています。

## NPO大曲花火倶楽部

平成三年、大曲の花火を芸術として、こよなく愛する若者が、花火を通じて地域活性化をと設立しました。平成四年から全国若手花火作家の技術向上を目的としての新作花火コレクションを開催。今年十七回目を迎えました。また、平成十五年には中心市街地に大曲花火庵を開設。

同年より花火を専門的に感動、楽しんで頂く為に花火鑑賞士認定試験を実施し現時点で北海道から長崎県まで三百八十人の合格者が全国で活躍中です。

平成十七年には市町村合併を機に旧八市町村が花火で一体化を図るため、毎月花火が上がる大仙市と協力し、花火暦を作成して全国に配布しております。

## 大曲の花火百周年

平成二十二年（二〇一〇）は大曲の花火が始まってから百年目にあたります。今、大曲の花火の主催者である大曲商工会議所は、百周年に向けて委員会を立ち上げ計画を策定中です。

現在地方都市の経済状況は、少子高齢化や農林業の衰退等で決して良いとはいえません。しかしこの土地を誇りに思う人は多く、特に最高のブランド花火には強い思い入れがあるのです。これら全てが花火で解決するものでもありませんが、この花火を最大限に利活用して、活性化に結びつけていきたいものです。

コンセプトは「大曲の花火を日本一から世界一へ」です。例えば、世界の花火師が大曲に集うとか、一日で終わらず複数日観客が大曲に滞在する、花火尽くめの街にする等々いろいろな夢があります。皆さんは如何ですか。

今年、第八十二回大会は八月二十三日。八月に入ると大曲の街々には、花火狂騒曲が鳴り響きます。

首都圏大曲会

## 会員のひろば

「会員のひろば」では、会員の皆さまからの作品を募集しています。詩・短歌・俳句や川柳・エッセイ・写真など、何でも結構です。締切りはありません。どうぞ事務局までお寄せください。



## 花吹雪

### 故郷の四季を思ふ

朱華

花吹雪北国の雪に似てゐたり
アジサヰを贈りし君の笑み浮かぶ
ホタル飛ぶ故郷の家静かなる
コスモスを自転車から秋を知る
いちじくの甘露煮届き母思ふ
新米を宅配便に心待ち
鉢の葉も霜の朝には寒すぎて

（大友律子　首都圏大曲会副会長）



## 黒皮羽生二作

### 追憶

梅の蕾に　春の雪
濡れて切ない　追憶は
夢を寄せ合い　夜明けまで
語りあかした　若い日の
忘れはしない　君の瞳よ
今も棲んでる　この胸に
淡い想い出　宵闇に
祭り囃子の　鎮守の森で
握るその手の　あたたかさ
浴衣の髪の　移り香も
男ごころの　あの頃は
好いているのに　好きだよと
口で言えずに　書く手紙
紅く燃やした　青春の
愛しの君よ　春霞

### 日の本の酒ごころ

男女　袖捨てて
五臓六腑で　酒酌み交わす
盃溢れる　艱難辛苦
熱きこころで　労わりあえる
それが日本の　お酒じゃないか
愛を育み　えにしの絆
永久に誓った　三三九度も
神代の昔を　現世に映す
神酒お清め　満願受けて
神に仏に　こころを宿す
五穀豊穣　万作祝う
杜氏喚起の　匠の技は
冷でおろした　樽酒も良し
肌で温めた　燗酒嬉し
それが日本の　お酒じゃないか

（佐藤重光　首都圏大曲会幹事）



小・中・高校教師を対象にした英語研修の企画、実施
検定試験業務の企画・運営、編集・取材・コピー制作

NPO法人　教育情報プロジェクト

代表　大釜茂璋

〒102-0061　東京都千代田区九段北1-1-71-304
電話 03-5213-2028(代表)　FAX 03-5213-2029
eメール：info@e-prosjp.com
http：//www.e-prosjp.com

大曲に所縁のある人みんなの会

首都圏大曲会　会員募集中！

年会費：1家族千円（会報代・通信費など）です。

☆ご質問・入会お問い合わせ先

〒102-0061　東京都千代田区九段北1-1-71-304
教育情報プロジェクト気付
電話 03-5213-2028(代表)　FAX 03-5213-2029
eメール：info@e-prosjp.com

# 大曲風お菓子のレシピ

私たちが育った頃の大曲には、いろいろな郷土料理や手作りお菓子がありました。ここでは広報「だいせん」で紹介された中から、懐かしい大曲のお菓子のレシピをご紹介します。

なお今年も11月ごろ、好評の「ふるさと便」のご案内をいたします。どうぞご利用ください。

## カミナリ寒天

（材料）

| | |
|---|---|
| タマゴ | 10個 |
| 砂糖 | 300g |
| 棒寒天 | 2本 |
| 牛乳 | 400cc |
| 塩 | 小さじ1 |
| 水 | 600cc |

（作り方）

1．ボウルにタマゴを割り入れ、よくかき混ぜてから牛乳を混ぜる
2．棒寒天と水600ccを中火にかけて寒天が溶けてから砂糖を入れる
3．2に1と塩を加え、初めは弱火で焦げ付かないよう、へらでよくかき混ぜる
4．タマゴが固まってきたら中火にして15分ぐらい、タマゴがボコボコした大きな固まりになるまで時々かき混ぜながら煮る
5．型に入れ、冷蔵庫で冷やす



## 大福もち（ごま）5～6個分

（材料）

| | |
|---|---|
| もち米粉 | カップ1杯 |
| 砂糖 | カップ1杯 |
| 水 | カップ1杯 |
| | （以上A） |
| 小豆 | 適量 |
| 片栗粉 | 適量 |
| ゴマ | 40g |

（作り方）

1．Aを混ぜ合わせ、最後にすりゴマを入れてもう一度よく混ぜる
2．蒸し器で、加圧中火で約15分蒸す
3．出来上がった餅を冷ましたあと、へらで適当なサイズに取り、片栗粉にまぶす
4．餅を伸ばして、丸めておいたあんこを包み、形を整えてできあがり

**【情報提供　首都圏大曲会「ふるさと便」扱い者　山田アイ子さん　TEL&FAX 0187-62-2840】**



## 編集後記



▽東京の神楽坂近く、神田川に沿って大曲という地名があります。勤め先が近かったこともあって、この辺りはよく歩いたものでした。生まれ故郷の懐かしさと重なって、どこか身贔屓を感じていたのかもしれません。

▽お忙しい栗林市長に本誌寄稿をお願いしたところ快くお引き受け頂き、大仙市発展に向けた力強い思いを玉稿に纏めてくださいました。「人が活き、人が集う、夢のある田園交流都市」実現に向けて、私たちも応援してまいりたいと思います。

▽首都圏大曲会が誕生して二十年という年月が流れました。座談会「わがふるさと大曲を語る」は、創設以来会長としてこの会をリードしてくださった棟方宏一さんをお迎えし、現幹事を交えて創設時の思い出から、それぞれふるさと談義に花を咲かせました。

▽私たちのふるさとの自慢は何と言っても花火。NPO法人花火倶楽部の賢木新悦会長に、大曲の花火をご案内頂きました。

▽二十周年を記念して十月に、「ふるさと探訪ツアー」を企画しました。格安料金のもと、現地での交歓パーティーも開催予定です。ご友人と誘い合いぜひご参加ください。（O）

**ふるさと大曲**

首都圏大曲会創設20周年記念号
平成20年7月19日

編集人：首都圏大曲会
発行人：大　釜　茂　璋
〒102-0073
東京都千代田区九段北1－1－7－304
教育情報プロジェクト気付
Tel：03-5213-2028　Fax：03-5213-2029
印刷・製本：株式会社　三戸印刷所

秋田・田沢湖 夏瀬温泉
都わすれ



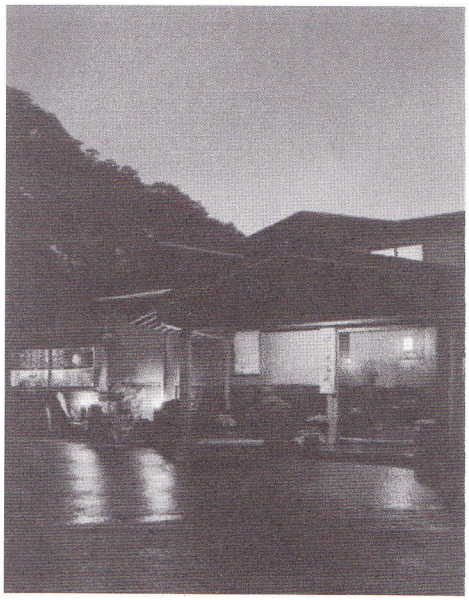
（秋田・田沢湖・抱返り渓谷県立自然公園）
田沢湖と角館の中ほど。紺碧の湖や渓流を見ながら木立の道を進みます。広い敷地と周囲の山々に包まれた「都わすれ」は客室わずか８室。全室抱返り渓谷の景観を見ながらのかけ流し露天風呂付きという、人里離れた理想のくつろぎの宿です。

秋田県仙北市田沢湖卒田字夏瀬84
TEL　0187－44－2220

ふるさとの「湯っこ」は
あなたのお帰りをお待ちしております。

乳頭温泉郷　金の湯　銀の湯
妙乃湯温泉

（秋田・十和田・八幡平国立公園）
ここ乳頭温泉郷は、七湯の素晴らしい泉質の宿が点在しています。中でも妙乃湯は関西から見た東の「金泉・銀泉」の二源泉を併せ持った誇れる宿です。また小じんまりした秘湯の素朴さ、古さに新しさのバランスを加味した趣のある宿として大変喜ばれております。



秋田県仙北市田沢湖生保内
字駒ケ岳２－１
TEL　0187－46－2740

田沢湖畔　エステ&カフェ
イスキア
ISCHIA




2008　3月1日OPEN！
秋田県仙北市田沢湖田沢字潟前72
TEL0187－43－2005　URL　http://iscjia-hotel.jp　info@ischia-hotel.jp